

はじめに

手術室やICUなどで周術期管理に用いる生体情報モニターは、心電図、非観血的血圧、観血的動脈圧などの循環器系パラメータとパルスオキシメータ、カプノメータなどの呼吸器系パラメータを同時に表示するマルチモニターとなっている。このマルチモニターは、筐体は1台でも、表示される波形や数値は複数あり、同時表示することで、わかりやすい表現が可能になっている。手術室においてはバイタルサイン把握のモニター以外にも、麻酔状態を把握するためのモニターや麻酔器内蔵のモニターがあり、これまで以上に多彩な情報が表示されている。さらに、手術室やICU内での検査機器なども進歩し、マルチモニターからの情報とあわせて周術期管理での活用が望まれる。そのような状況にある今日、これらのモニターや検査機器からの情報を、どのように読み取りどう活用するかが、周術期患者管理のカギになっている。

これまでに、多くのモニタリング指南書が発行されてきたが、モニター動作原理については通り一遍の説明のみで、原理を本質から理解させるような論調のものは見当たらない。さらに、周術期患者に適応する場合に、どう読み取るか、どう活用するかについて、要点を押さえて網羅的に記述している書籍もない。そこで本書では、原理についてはモニター開発メーカーに、現場での活用についてはモニター機器の活用能力に優れた現役麻酔科医に執筆を依頼し、周術期に使用するモニターの基礎から攻略法までを詳解した。本書を隅々まで読破することで、周術期のモニター活用に関してエキスパートに近づけると考えている。

2013年10月

著者を代表して
讃岐美智義
内田 整